

義經勳功圖會

前編

13
3331
1



法橋西邨中和畫圖

義經勳功圖會

全部五冊

明史稱曾之刊行於全

宋也日卷一日惠之思不第不

京汴牛之書梅之有誕國世

以多陰式之學世憲公勳之

有之安附方求善者怪乎之

新新之の以評海家不蘭之



五十七卷
本大學出版部

1878

3331
卷 1

婦人情極薄者亦原其來
來之實至七日居極其
山田聖子因結源公家記
百心廢佛法實錄者從細生
且讀者之中和者如編像以便
通任平以實錄文之苟忠德

弘公生涯之記之而歸如家
攘臂鳴呼於每百年則曰之
公子隔世中臣之實與所居
揮之仁安祀害人情者同以而一
備哉刻者乞序因之與
翠車一月并言後





武藏坊
朝慶
像



源廷尉
義經公
像

義經勳功圖會前編總目錄

卷之一

幾端 常盤御前漂浪の圖

西行法師白峯山見姪異條 同圖

聖門坊勸于牛若丸復仇條

牛若丸異人學劍法條 同圖

三條橘次牛若丸勸東行條

牛若丸赴奥列條

赤坂宿牛若丸斬強盜條 同圖

熊坂長範最期之條

牛若丸熱田乃神前少加冠之圖

牛若丸元服 在淨瑠璃姫之事

淨瑠璃姫牛若丸成懸想とる圖

牛若丸討美佐寄兵衛條

卷之二

伊勢三郎屬牛若丸條 同圖

牛若丸對面秀衡付六韜三略之傳

牛若丸初く秀衡と對面乃圖

吉岡鬼一法眼之事

牛若丸竊見秘書條 同圖

白河湛海最期之條 同圖

武藏坊辨慶由緒 鬼若乱行乃圖

鬼若乱行 在剃髮改名之條

卷之三

辨慶懲海園并書寫山炎燒條 同圖

辨慶洛中奪太刀條

牛若丸伏辨慶條 同圖

蹴上峠牛若丸斬関原与市條 同圖

清盛入道藥經島條

源三位頼政最期辞世乃圖

重盛逝去并將軍塚鳴動諸卿左辻之條

高倉宮御謀叛并源三位頼政最期條

福原辻都天變乃圖

福原辻都并諸國源氏蜂起之條

卷之四

文覚于頼朝勸義戰條 同圖

頼朝石橋山揚義棋條

真田与市同文藏戰死之圖

富士川合戰之條

平軍水鳥小鷲丸敗走乃圖

清盛逝去并木曾上洛平家都落之條

木曾義仲乱妨之條 同圖

秀衡元治諫言義經條

浮島原頼朝對面義經條

平家都落之圖

範頼義經上落之條

浮嶋原小頼朝義經對面乃圖

卷之五

義經遠討守護仙洞條

義仲松殿乃姫小余波茂借圖

義仲最期兼平戰死之條 同圖

範頼義經撰刻羨向并三草山夜討條 同圖

一之谷合戰之條

鷲尾三郎属義經并鴨越逆落條 同圖

一之谷落城并義經首實檢之條

一乃谷落城平家拔落乃圖

範頼義經西國下向之條

義經勳功圖會前編總目錄畢

義經勳功圖會前編卷之壹

目錄

幾端 常盤御前漂浪乃圖

西行法師白峯山見姪異條 同圖

聖門坊勸于牛若丸復仇條

牛若丸異人學劍法條 同圖

三條橘次牛若丸勸東行條

牛若丸赴奥州條

赤坂宿牛若丸斬強盜條 同圖

熊坂長範最期之條

牛若丸勢田の神前少く加冠之圖
 牛若丸元服并淨瑠璃姫之事
 淨瑠璃姫牛若丸成懸想する圖
 牛若丸討美佐寄兵衛條

義経勳功圖會前編卷之壹

幾端

浪速 山田敏雄散生考訂

夫良將の軍戎統ふや己成怒く人成治め惠成推し恩成施し力士
 日々小新なり戦更も風乃殺まふが如く攻更ハ河乃決るかか下
 故小其衆可望し不可當可降し不可勝是故小百戰百勝之
 善の善ある者にあらず不戦し人の兵成屈まざる善の善ある
 者なりとや茲小源延尉兼伊豫守義経公とや昔昔勇名四海の
 車なき神威異域成動し三徳兼備の良將小古今獨歩の大將軍の
 不変久しく人口贈多し三歳乃大擢章も能知所なり
 尋奉る小畏多も人皇五十六代乃聖主清和天皇第六の皇子良
 王仁御子六孫王徑基公より八世の孫從四位左馬頭義経公の
 九條雜士常盤御前の腹より出誕しひかり曾く母君慶利公の

力の圖會前編卷之壹



幼少園遊



常盤
御前
漂浪
圖

薰子園遊卷之三

鉾谷吞と夢乃と孕めり。其頃父義朝も保元の役小上皇
の御味方小泰り。勲功拔群ふり。上皇の御覺目出度二時の賞
翫他小異なり。小誤り右衛門督信賴と。一將小如膽。少納言
信西法師が攻殺し。上皇へ冠せり。平清盛父子熊野より引返す。上皇
上皇が捕け奉り。信賴義朝と戦ふ争ひ。小信賴が徒王法小敵
奉り。天殊免得ず。六波羅の軍利あり。信賴ハ乱軍の中より
義朝を逸れ小主従三十余騎小討ふ。幸しく都を啓れ。小いり
其路と。或平軍小遮ら。或山法師小支られ。大夫進朝長を
膝乃。深く射られ。陸奥六郎義隆も流箭の為小命有り。六経
方なく美濃國音暮乃宿あり。長者が好小。隠生世の動静が窺
ひ。手家此命令と。落入。搜。需ふ。妻嚴。一。多。て。迎も
大勢打連。落し。更。練。拙。小。似。たり。と。隨。逐。乃。緒。勇。士。小。暇。を

遣し。二人三人。姿。戎。紛。装。し。別。小。落。行。り。其。中。小。も。痛。り。た。義。朝。の
二男。朝。長。を。り。り。勝。口。の。箭。疵。痛。甚。く。た。れ。た。所。詮。存。命。り。名。も。無
者。小。生。捕。ま。し。殊。せ。り。と。し。り。と。暗。小。自。害。し。果。た。れ。た。義。朝。の。悲。歎。限
り。た。り。道。小。と。刀。小。手。成。掛。り。ひ。れ。ど。即。黨。強。く。練。兵。争。ひ。た。れ。た
洞。あり。朝。長。の。屍。と。隠。し。鎌。田。兵。衛。政。清。淡。谷。金。剛。九。就。鳥。津。玄。光。三
人。小。扈。從。せ。り。と。地。小。拔。足。し。と。尾。死。し。落。行。普。代。乃。家。人。を。多。く。野
間。庄。長。田。四。郎。忠。致。館。小。忍。び。居。り。ひ。り。然。小。長。田。忠。致。も。不。義。貪
欲。の。武。士。を。多。く。義。朝。主。從。を。討。つ。六。波。羅。乃。檢。賞。小。預。し。情。ふ
く。も。重。代。乃。恩。人。義。朝。公。を。欺。く。浴。室。の。裡。小。弑。し。現。在。已。に。娘。の
塔。小。鎌。田。政。清。が。も。討。取。り。二。扱。乃。首。小。六。波。羅。へ。登。り。たり。と。や。り
後。に。嫡。子。愚。源。太。義。平。も。石。山。中。へ。虜。と。なり。斬。罪。せ。られ。三。男。兵
衛。佐。頼。朝。も。江。碓。乃。生。捕。ま。し。既。小。殊。せ。り。と。ま。り。ひ。り。清。盛。乃

継母池の禱尼深く憐れ種くや宿老伊豆國流刑の所せしむ
ひぬされば此時小あらく源家終小滅亡し其妻子眷屬を北所
彼所小逃吟ひ或心小捺ぬ出家へ道し墨の衣小姿成く或
降人し成く短褐小形成窶し肥馬の中小塵成望も多うりたり手
家尚も源家の根成断葉成枯し其類族成搜し尋ふ更
たりもなきを彼常盤御前も今若し若牛若の三子成仔ひ都成
ひ出足弱車のカナく緒所小漂穿し御坐在し清盛ま常盤
少腹三男子有成知く虜しふし珠せし吟味させられども
角彼人乃在所知され常盤が母関屋といふ老女成生捕種く呵
責成とつ常盤が行衛成責問く其頃常盤御前大和乃宇
多小忍び居し母の呵責をきく大の小歎き悲しむ名を
出く母の責苦成殺しと思へども流石小三人の若君成斬しむる

然るに子成失はく現在母成責殺さるる也。是
如何小せ何とせんと天を仰せ地成打く涕泣痛哭さるるも絶す
命成手段なく。忙然と御坐在し。亦思返し。躬三子成貯し
遂小を搜し出さる朝敵の末し。殊せしハ必定たり。逆を消
命成露の命。潔く名乗出。三子と俱小刑せ。罪成母の命と全
たり。恩愛の考小辨せし。三人の公達成伴ひ都乃方。御心
根し痛りりり。斯く都。衝著六波羅。名乗出。御心
根。清盛大の小説。悪七兵衛。景清。監物。太郎。頼賢。兩人。命。常盤
成。白破。引出。せ。紅。額。翠。依。の。清。ら。う。あ。る。大。妻。殿。の
春。比。媚。成。写。し。耳。泉。殿。の。煙。の。手。も。是。小。過。し。思。ひ。り。の。美。貌。を
清。盛。殆。ど。見。惚。入。言。成。も。出。さ。ず。在。る。常。盤。御。前。の。洞。掻。の
傳。へ。承。り。ば。妾。親。子。在。所。を。需。る。母。成。召。捕。呵。責。し。由

不孝の罪の恐ろしき。源小住虫の我々と名乗出侍りぬ。身成免も角もなす。母幼た兒どもの命成助たひ。溢るる涙と俱ふ。其の更なる露成含る。芙蓉の如く。雨帯たる梨花の如く。あまの清盛弥神心傷け。面成和らむ。釣成和めく。繒の昔より源平両家も。朝家の武官として水臭乃因成あり。國家成補佐せし。不圖小義朝不臣信頼小加膽。天網成犯し奉り。故に成得ず。聖主成佐奉り。一戦小及び。処天道私に味方。勝利成得。朝敵成亡と。魚原未私の遺恨小あらず。平家成然敵と思。更なる朝敵の未成れを。義朝が類族と。二人も残り。守斬罪す。くまの。も乃名家断絶せし。更成惜。公の私成と。兵備佐頼朝成。助命せし。狂なま。増く稚子小於を。心安ま。母の命及。三子の命。清盛が軍功小。幾度も。省を助。得させし。咽り

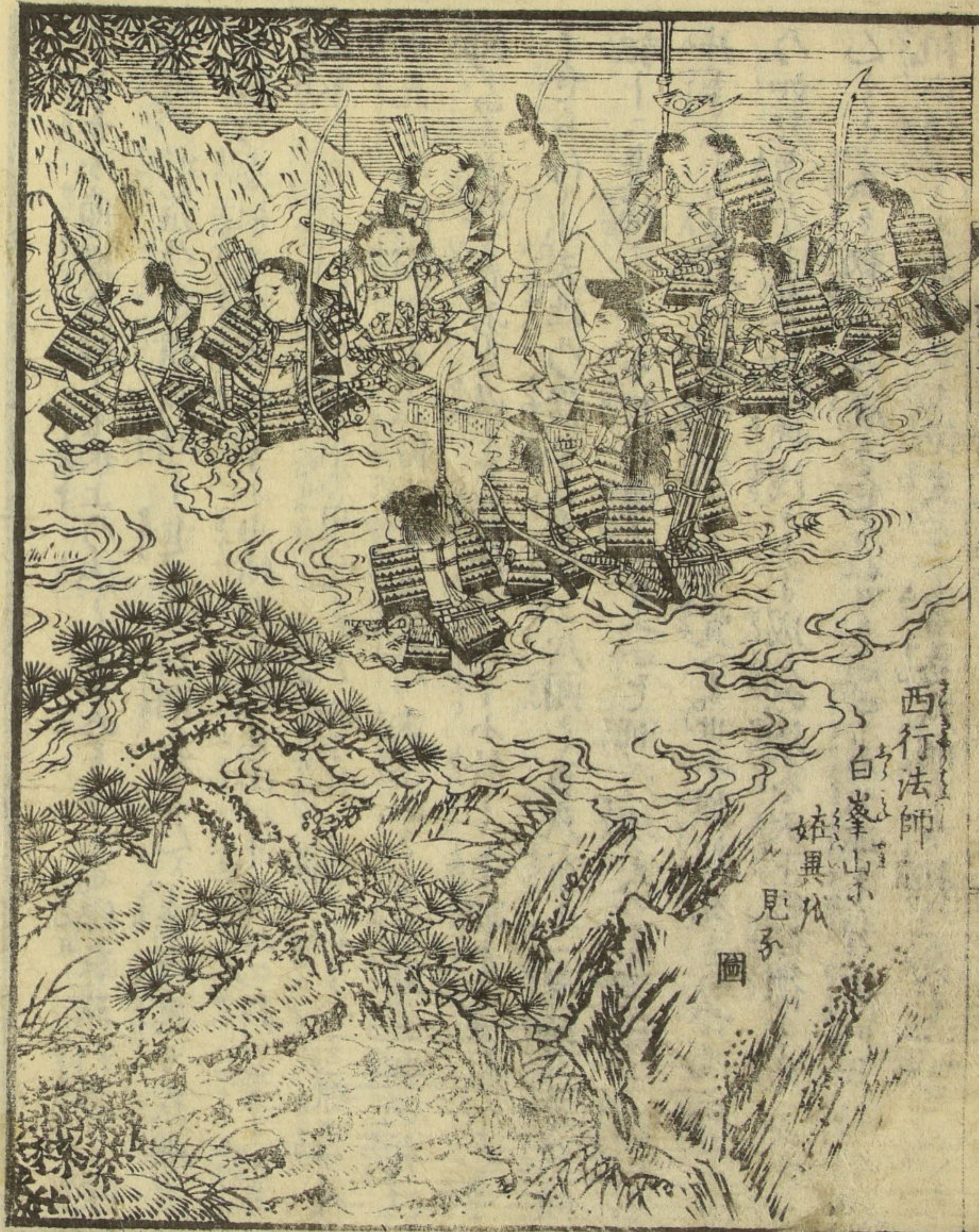
言へ。常盤御前も夢うと。屠所の羊乃及。免を狩場の雉子の。舊成避得し。心地深く。恩成謝。清盛頓。監物太郎頼賢成。招た老母成。縛成者。常盤と。俱小。七條朱雀の亭。伴成。抑此常盤御前。浴中。小隻。あ。美人小。在。其頃。九條門院女官成。召。十人の美人成。聚。其。中。小。殊。小。勝。美人百人成。擇。亦百人の中。小。十人成。擇。召。使。其。十人の中。小。此常盤御前。第一の美人。あ。此。時。年。廿三歳。小。盛。女。一。過。れ。風。容。艶。麗。あ。喻。小。者。一。度。笑。む。城。成。傾。け。二。度。笑。む。國。成。傾。る。賦。一。乞。も。浩。ふ。人。成。や。り。下。死。と。天下。乃。賞。翫。浅。く。す。清盛。好。色。第一。の。人。あ。れ。む。大。小。常盤御前。の。佳。色。小。泥。む。日。小。朱。雀。乃。亭。へ。通。い。種。種。口。玩。ま。さ。く。小。常盤御前。も。初。の。裡。も。節。操。成。破。く。と。表。引。乃。色。あ。る。意。地。深。た。清盛。を。三。人。の。公。達。成。奈。何。と。も。知。り。や。此

身も貞操破れ忍敵と抗席成丈一勢成萬代小曳も恩愛の児
為小を厭し心茲小決一意小深ぬ夫ら小枕成り初より
清盛神魂成天升小祀日小通路の敷成重孫電遇他小異
常盤御前成女一心得安し尚も公達の命成長く全
今若丸を觀音寺へ登り出家させし後小阿野乃禪師
し若丸八條の宮小侍をせし後小御乃君圓濟とぞや
ハまご襪縹の裡成放まふ子を躬膝行小く養育有
暗尖く心成猛々智才成小秀り清盛深く忌懼成龍
小く起躍乃德成現一虎ハ生むふり牛成食乃勢
小兒も手家小冠も曲者ありめし更小侍害せし
成常盤御早く其氣成察し絶一源氏乃家名成
あつ外小有也一も覺せず然るも永く膝下小置入道小害せし

ても妻が節操成破れ水上の泡とありのなす源家成引真一頭
の殿の修羅乃爵憤成晴し進す命成期ふし遠丸慮り成廻り
七歳乃春永萬元年源家小由緒あり鞍馬山に東光坊の終へ登り何事
出家となり一門の後成世も吊りせしと相小頼も遣されし原來此
東光坊乃阿闍梨も六條判官為義乃末子小く左馬頭義朝の初
師あり故一義も及む領諾し膝下小於る手跡素續ありと學
せらゆ小天性乃後成たまた成聞る百成察し一度續ハ是成暗
記し二度續しと理小通しゆふと師乃坊大の小驚嘆し山門三
井寺小も是程れ兒有也しと覺す世小麒麟兒といふ此海曹子
乃如死者たるとと欣悦浅くす成人の後も天下の碩徳と成
んとも益々勤學成厲手せられし小牛若公亦手習學向成好
机小侍も春乃日九倦更なく書卷成用と秋乃夜も睡成



幼刀圖會卷之三



蘇丹國繪卷之三

西行法師
白峯山
姑異城
見子
圖

の官人も飯りたれた。とく。悵憤宿乃御住居聞小従ひ。小付の
御悲。獨御身乃秋となり。起階露の。とく。小都成忍び。小御泪
霽る時。御前憤乃餘り。躬大業經成書写。とく。天帝。誓。宣
く。朕今生乃恨。己小骨小洩り。肌小論。難忍。たれ。魔王。と成。此
怨成報ず。とく。尚も。二七日の間。御身成清め。御指の血成溜。とく。通
乃告文成。投。とく。海中。小投。入。を。天竜八部。も納受。や有。一人。乃童
子。忽然。と浪。乃上。小浮。と出。彼御告文成。把。と海中。小入。ぬ。御願。既。小成
就。と。と。天顔。麗。と。其。後。長寛。二年。八月。廿六日。遂。小左。近。の。怨
小沈。と。御年。四十六。歳。ぶ。と。崩。御。と。ぬ。傾。と。白。拳。小尊。骸。成。葬。王
御凌。成。築。た。御朝。成。高。く。宮。と。魚。山。嶂。寂。寥。と。と。詣。登。侍。人。も。た。く
葛。苗。圃。成。因。蘿。蔓。自然。石。窟。成。湮。ひ。只。音。信。不。者。と。と。磯。打。浪。松
吹。風。乃。と。と。荒。乃。と。増。か。を。り。かり。西。行。法師。ハ。此。君。御。在。せ。乃。と。た。も

親。と。勅。言。成。蒙。王。奉。り。と。と。と。法。施。進。せ。と。と。御。前。小。詣。
此。光。景。成。乃。と。懐。旧。の。涙。自。然。手。向。乃。水。と。と。乃。跪。と。二。首。の。和。歌。成。詠。ぬ
と。や。君。む。の。玉。乃。床。と。と。も。から。後。ハ。何。小。く。せ。と
哀。涙。衣。乃。袖。成。漫。と。と。己。事。乃。御。身。小。も。前。業。と。盡。と。せ。玉。乃。寸。哀
樂。轉。変。の。世。れ。あ。と。と。惜。ふ。北。國。の。春。乃。花。乃。流。と。と。不。飯。水。小。従。ひ。奈。何
と。西。海。乃。夜。の。月。不。暗。と。と。左。近。の。雲。小。入。せ。と。と。小。更。況。や。人。間。夢。裡。乃。身
乃。程。と。と。か。る。と。と。更。も。も。か。と。と。烟。小。称。名。と。と。立。退。し。と。と。小。俄。然。と
と。御。廟。鳴。動。と。と。蕭。と。と。る。風。乃。音。小。和。と
と。濱。子。鳥。あ。と。と。都。小。か。と。と。も。身。ハ。松。山。小。音。成。乃。と。と。啼
と。と。聞。え。々。々。西。行。深。く。感。惜。と。と。永。た。園。路。の。下。近。も。御。電。情。と。と。難。有。
暫。時。此。所。小。在。と。と。心。終。乃。法。施。成。も。獻。と。と。天。電。の。重。成。報。と。奉。り。と。頭
陀。成。あ。ろ。と。と。坐。成。と。と。小。一。天。倉。奉。小。搔。曇。り。忽。然。と。と。暗。夜。乃

カノ同...

如く山谷動搖し、究も霹靂の震がしくなまを西行も大の小孩き是
を奈何する靈殮そし魂も天外小飛心地。身の毛堅く覺え多れいも
流石道徳勝きし身あれば心か抑鎮め念珠押揉閑小念佛しく在け
ふうち猶鑑りたれを眼戎用たるる今迄乃御廟忽ち金殿玉樓と
妻。中央乃玉基小崇徳帝金竜の御衣的壁小金冠成頂た。まよひ
玉體魏々しく坐しめむ。左右小左大臣頼長藤原信頼六條判官為
義鎮西八郎為朝左馬頭義朝悪源太義平大夫進朝長鎌田兵衛政
清成始し。保元平治の戦場小命成失ひ。兵とも噴毒強盛乃鬼乃
緒成しを悪業煩悩乃遺成著し。思くの劔戟成提け眼戎瞋らし著
坐せり。西行大の小孩死北然し。平伏し。ま。崇徳帝火焔の如
丸息成絶せむい。宣く。朕黄泉小赴と金憤怒乃一念あ。不消噴毒
乃焔と切火よりも盛小く。五蘊の形ハ壞し。金精靈天小飯らす。靈の

神も尚明く小宿世乃福力小侍く修羅の上將とたりぬ汝是迄きり
縁歌し。朕成慰ふ更感慨浅く。ず依く形成現し。刃せしむる今
都小何更る有汝遂一小奏せよと宣ふ西行敬く。さ。い。去ぬか永元元
年二月平清盛右大将小任し。七月二條院崩御在し。今上亦御腦重
らせむ。二歳の皇子小御孫位あり。且去年七月難波六郎横死仕ふ
是皆君乃御崇と恐怖し。平氏の二族君成恐奉。緒社の奉幣佛陀の
祈誓言夥しくいと。奏し。院玉顔殊小悪く。呵く。と。打咲かせ。思
源太義平進し。出吾君の勅成来く。布引乃滝小難波六郎成更裂捨ぬ
刃し。君乃御靈威成以。平家乃親族悉く滅亡させ源氏一統の代と
し。あ。其子始小我憤怒乃鋒成提。手家乃棟梁し。ふ。重盛成討
五道乃冥官小傘。清盛成焼殺し。刃せむ。其余乃幾堂
朽成等。あ。汝都へ飯く。世の傳妻成見聞し。益く菩提心成

厲まませよ如何いかに小こ列りゅう位い快くわいくずやとと左さ右う成じやう吃しやくしと刀たうをを列りゅう坐ざ乃の人ひと々々一いつ齊せい
 小こ呵かくくとと咲さくくとと刀たうをを列りゅう坐ざ乃の人ひと々々一いつ齊せい
 ちち暗あんくく空くうとと方はうりり金きん殿てん玉ぎよく樓ろうとと刀たうをを列りゅう坐ざ乃の人ひと々々一いつ齊せい
 不ふ叢そう小こ其き身み入い坐ざ一いつ居いとと西さい行かう忙まう然ぜんくく夢む現げんのの境かう分ぶん々々更さら小こ
 人心にんしん地ちももふふくくがが衛ゑい胸きゆう成じやう鎮ちんくく御ご廟びやう成じやう拜はいしし夫それよりより尚あなもも國くに々々成じやう拵しやう
 一いつ都と小こ飯はんままくく世よのの動どう静じやう成じやう窺くわいひひ刀たうをを列りゅう坐ざ乃の人ひと々々一いつ齊せい
 一いつ都と小こ飯はんままくく世よのの動どう静じやう成じやう窺くわいひひ刀たうをを列りゅう坐ざ乃の人ひと々々一いつ齊せい

聖門坊勸潛牛君丸復仇條

却くわく統とう其き頂てい洛らく中ちゆう四し條じやうのの道だう場じやう小こ聖せい文ぶん坊ぼうとと尊たうをを僧そうああてて世せ俗じやく四し條じやうのの聖せい
 とと言いあありり此この僧そう以もつ前ぜんをを左さ馬ま頭かう義ぎ朝ちゆうのの乳にゅう丈じやう鎌けん田てん兵へい衛ゑい政せい清じやう々々妻さい腹ふくのの
 男おとこ三さん郎らう政せい親しんとと言い一いつ者ものななりり去さぬぬふふ平へい治ち乃の役やく小こ八はちままくく十じゆ二に歳さい成じやう一いつふふ
 其その母ぼ兎う角かくくく隱いん一いつ置ち夫それよりより年ねん月げつ押おし後ご聖せい政せい親しんがが十じゆ九く歳さいとといいふふ年ねん母ぼ
 政せい親しん小こ結けつ々々ふふ保ほ元げん小こ為ため義ぎ討たうままりり平へい治ち小こ義ぎ朝ちゆう失しつささせせ玉ぎよくひひ一いつよりより

身み小こ親しん一いつれれ者もの八はち人にんももななくく深ふか山さん小こ残ざんふふ朽く木ぼく葉は乃の一いつ夜やのの嵐あらしをを待まちがが如ごと
 くく世よ小こ頼たのめめああれれ身みのの果はたたりり海うみもも今いま八はち佛ぶつのの御ご弟てい子しととななりり一いつ編へんのの經きやう陀だ羅ら
 尾お一いつ種しゆのの香かう花け成じやうももととりり先せん没ぼつのの君きみ父ふ親しん戚せき乃の菩ぼ提だい成じやうもも吊たうひひ生せい殘ざん
 たりたり母ぼがが為ため亦また八はち其その身みのの後ご世よ乃の菩ぼ趣しゆ成じやうもも免まままいい一いつ洞どうああがが小こ教きやう訓くん一いつ
 々々ままたた政せい親しんもも數かず行かう乃の洞どう成じやう抑おさへへままくく作しやく乃の一いつ洞どう源げん家け乃の御ご子し孫そん々々流りゅう
 落らくくく弓きゆう馬ま乃の名な成じやう埋うりり平へい家け八はち朝ちゆう權けん成じやう執しやくくく八はち荒かう成じやう堂だうにに握にぎるる者もの為ため擣こ
 妻さい乃の世よ中ちゆう見けん果はぬぬ夢む乃の住す家けななままたた御ご練れん小こ順じゆんひひ道だう世よ出しゅつ家け一いつ緒しよ國こくとと
 經きやう廻くわい一いつくく日にち王おう七しち父ふのの跡あと成じやうもも吊たうひひ亦また世よ上じやうのの奥おく慶けい成じやうもも見けんひひああんんとと終しゆう
 小こ世よ二に歳さい中ちゆう落らく髮はつ一いつ墨ぼく代だい衣い小こ頭かう陀だ成じやうけけ拵しやう行かう脚かくのの行かう者もの成じやう成じやう往かう
 々々筑ちく紫し大だい宰さい府ふ小こ赴しゆ丸わん安あん樂らく寺じ小こ入いくく修しゆ学がく一いつ勤きん行かう怠たいくくすす遂すい小こ高かう德とく
 乃の僧そうととななりり行かうひひ清せいくく居いととななりり余あま里り日にち御ごのの意い一いつにに都と々々左さ政せい乃の
 四し條じやう乃の御ご堂だう小こ居いととななりり小こ平へい家け乃の般はん榮じやう榮じやう奢しや移い孺にょ慢まん成じやう刀たう々々小こ月げつけけ凡ぼん夫ふ

心禁トがく一意成困一ぬ天晴源家乃一族小大義成思立人もがの摩寛
乃利劔も佛も帯一もを我も慈悲忍辱れ名を脱持國多門の甲冑
成著一々世人が無明乃眠成驚うさん物成如何あれ源家程乃名家
乃僅小兩戦の向小泯滅一適殘ふ公達も長一免を斬き幼ハ押電ら
是。從者著族並も言甲冑多々一潛之急一頭成ふ出い得ぬを浅接
一死次第ふも恨氣小胸塞く。紅涙三衣成漫せ一。倍指成屈く源
家の人々と等々ふ。死伊國小陸奥十郎義盛河内小石川判官代義
賢提ぬふ多田藏人行綱都小兵庫頭頼政近江小佐々木源藏義
秀父子尾張小蒲冠者能頼駿河小河野禪師伊豆小兵衛佐頼朝
常陸小佐竹別當政義志田三郎義範信及小曾冠者義仲上
野小八戸振吾妻是ホも國成滿或ハ大義成思立程乃器量なく俱小
謀成廻しふ由なく。只鞍馬寺小在す義朝公乃八男御曹子牛若君ハ

俊才人口小繪多とまむ見泰一々心頭武勇一々御坐在心大義成勸免
奉り御書成賜つら一伊豆國一地下リ。佐殿成練く義兵成起さん者一
思惟成決一頓一鞍馬一結一兼一知已なきも東光坊の行小止宿して
專一隙成窺ひ一夜人定つ一後牛若丸在す一問一答リ對面一々四方ハ
方乃物結あんど一其生立成窺ひ着小玉面阜鼻威有く猛一々言結
溜々一々流水乃一々天晴大將軍乃機成備りりも小七聖門房大ハ
悦び膝成進め声成低めく中々ハ君ハ方一々清和天皇の御正統六孫王の
末裔爾頭乃殿此貴曹小一渡一せも一何を碌一々一々空一々枯果一々
も志一々一々斯中せむ事怪忽小ハハ一々愚僧ハ御父左典厩の御乳文兼
田政信が男三郎政親一々中若小ハ保元平治の乱小味方お負頭の殿長
田々毒手小掛一々一後ハ源家お若も無一々一々無道一々平家お年一々
追一々繁榮一。日本過半成領一々栄達肩成登一々者も一々一々奈何小

無念の思ふ事や古人も君父の讐小と俱に天不戴しやせり早く蘇と廻
敵徒瓜亡く先君の憤怒成休奉り會誓の耻成雪たまた昔
漢土小趙の智伯と言一人趙盾より者乃為小田すれ既小戦死せしと
たふ小臨ん程嬰持曰く二人の臣下小三才の孤成死其身と
戰場小命成預ぬ彼二臣千辛万苦く孤成養育し大軍成起し
く遂小父の仇を復せ趙國成奪返たりたり承ふ三歳の孩見
尚斯のごし況や君既小十有三歳早く復仇の大義成思召立せたる
愚僧亦御書成懐小く緒別成弛巡里普代思願の人々成催促せ六數
萬騎乃御方弛然いんと利成場くも練奉りなる御曹子聞召心中
小思召々ふ當時平族朝權成握り繁昌日々小倍と多と彼成威權
小怖も阿里使はさるる夫今世の中容易小更成爲難し況や
都近た此所小於を察も小此僧吾素姓成聞謀叛成勸め却く平

家へ詩人吾成賣く已成利せん巧あう老とく敢く心成省し玉子唯
生涯出家得道く世成安くせん社我望なりと承引の色なれを聖
門坊大い心成困め尚種々と理成噴く練め奉まても御曹子欠伸し
く取合のふされも聖門坊雙眼血走王涙を流く大息し且天成仰く
長嘆し噫呼天を我多多年復仇の思念小寢食成忘き適其人
成得と金銀用ひらき守今頼も細も坊果たり整小存命く仇敵
乃采成刀の口惜し生害せん懐中成刀拔放しおやや自
害せん形勢なむ御曹子急小推止し先更小逸りく大死し更
勿も吾も争く復仇の思ひ功なりと金和尚が心底成探り小保し難
面もくたをりぞと仰れ聖躍揚く大い脱び是より密々大義の謀
成談合し逆も日所小有く更成疑し人乃疑論もむつり三曲
日立く聖門坊と曲條の御堂を飯りたる

牛若丸
鞍馬山
小
劍法
圖



功刃圖

十五



薰以圖會

十三

牛若丸学異人劍法條

月日小閑守つれひ せんとりなく霜しも徃やう星せい移うつりく。牛若丸うしろうまる既す小十五歳こじゅうごさいふたりのみいい益えき
 修しゆ学がく小心しんしん成なり委あづか孫まご顯けん密みつ乃の学がく業ぎやう怠たらす。今いまも金かね台たい兩りやう部ぶ乃の奥おく藏ざう成なり悟ご
 リ不ふ二に體たい圓えん頃こん實じつ相さうの止し觀くわんと究きゆうえのひひ一いつ山さん乃の賞しょう嘆たん他た小こ異いなり然しか
 まども牛うし若わ君きみ二に向むか復ふく仇あつ乃の志し功こう小こく肝かん膽たんと疑ぎ御おん坐ざ在に借か思しめ
 々々ふハハ三さん軍ぐん成なり指さし揮な一いつ敵てき軍ぐんの機き成なり察さつ一いつ五ご事じ七しち行かう奇き正せい乃の道みち堅けん成なり敗ばい
 至いた銳えい成なり挫さう居い乃の敵てき成なり敗ばい乃の更さらハハ兵へい書しよ小こ通つう一いつ劍けん成なり学がく小こ不ふ如に乃の馬うま打うち
 物もの早はや業ぎやう乃の小こ精せい一いつくすくすと大たい義ぎ成なり思しままも其その功こう成なり乃の天てん晴はら善ぜん
 師し匠じやうもくふ身み成なり委あづか極ごく意い小こ到たうらら乃の然しかと思し召めいもも雖しかとさす人ひとも無なれ
 乃の吃くと意い小こ業ぎやうト出いで乃の更さらハハ當たう山さんの奥おく貴き船せん明めい神しんハ王わう城じやう守しゆ護ごの御おん神しん小こ
 靈れい驗げん珠しゆ小こ署しよ明めい乃の聞き乃の丹たん絨じやう成なり抽ひ乃の祈いのち乃の加か護ご乃の力ちから乃の心こころ
 と或ある夜よ小こ夜よ更さら乃の唯ただ壹いつ人ひと腹はら巻ま取と乃の救きう掛け金かね造ぞう乃の大たい刀たう成なり佩はい別べつ當たう乃の坊ぼう成なり

42
 1078
 (81)

